



舞踏するクマ

編集月旦 2013年2月号

★web「月刊文風」は、「人生90年時代」の高年期の日々を、多様に過ごす現役シニアのみなさんとともに、「成熟」した「モノ・居場所・しくみ・文化・暮らし」が水玉模様のように重なって広がる「日本長寿社会」をめざして、小さいけれど強固な情報拠点として活動してまいります。

★総理になった安倍晋三さん（58歳）の所信表明には、「経済全体のパイ」を支える「高齢者参加」への認識がありません。活力という若年層の「成長」力しか思い浮かばない単純さです。高年者の「成熟」力によって新たに形成する経済社会を構想するには、多重型の思考が必要です。「日本長寿社会」は「三世代多重型社会」でもあるのです。

☆アベノミクス効果というのは、かつてない「天災人禍」にも沈着に対応し、その間もアジア途上国の近代化に技術・人材・資金を投じて尽力している日本国民に対する信頼と期待とねぎらいとが合わせ表現された日本評価です。大戦後の戦禍から立ち上がり、貧しさも豊かさも分け合いながら営々として働き、半世紀余にわたる平和を堅持して到達した国際的成功モデル「日本」に対しての表敬評価なのです。

☆「人」の活力による改革を訴えて政権についた民主党は、3000万人（票）に達した高齢者（65歳以上）の潜在力を活用しませんでした。再建民主党に提言します。

★体力自慢の石原慎太郎さんは一橋大サッカー部で、藤井裕久さん（同い年の80歳）は東大野球部だそうです。が、参議院から衆議院に移って「改革の新党」とともに労苦を重ねてこられた藤井さんの姿はラグビー部のようでした。昨年10月には永田町の議員会館に、今年1月には港区白金台の事務所に、昵懇である毎日新聞政治部OBの尾崎さんとお訪ねしました。1999年からいまに至る政治の側の「高齢社会対策」の延滞につきうかがい、現役を退かずに参議院での引きつづきのご活躍を要請しました。

★仮創の「賀寿期五歳層十五人円卓会議」が実現されれば、日本高齢者の存在感は国際的に高まるのにちがいありません。

★本誌では新たな時代の内容を盛るために、新しいことば（器）を用いています。「20世紀後半期の社会」から「21世紀初頭の社会」へ。世紀をまたいで歴史的快挙として達成するのが「日本長寿社会」です。

「日本長寿社会」のパラダイムシフト

20世紀後半期の社会

- ・「人生65年時代」
- ・「二世世代+α型」社会
- ・支えられる高齢者・老人
- ・少子・高齢化社会
- ・ピラミッド型・瓢箪型人口
- ・団塊世代（昭和22～24年生）
- ・青少年期に能力養成
- ・生涯学習
- ・国土の均衡ある発展
- ・標準家族・一人暮らし高齢者
- ・還暦・古希・喜寿・傘寿
- ・米寿・白寿・余生・

（編集人・堀 亜起良 堀内正範 記）

21世紀初頭の社会

- ・「人生90年時代」（65+25年人生）
- ・「三世代多重型」社会
- ・支える側の高齢者・現役シニア（丈人）
- ・高齢社会・長寿社会
- ・つりがね型人口
- ・平和団塊世代（昭和21～25年生）
- ・高齢初期（60～65歳）に2回目の能力養成
- ・地域大学校
- （とともに）・個性ある地域の発展
- ・三世代同居・近居
- ・自立・参加・ケア・自己実現・尊厳
- （国連「高齢者五原則」）